



2024年7月3日

各位

会社名 株式会社グローバル・リンク・マネジメント
代表者名 代表取締役社長 金大仲
(コード番号：3486 東証プライム市場)
問合わせ先 経営企画部長 竹内文弥
(TEL. 03-6821-5766)

株式会社プロネクサスの調査において、
GLM 有価証券報告書の記載内容が参考事例として選定

当社（以下「GLM」）は、このたび、株式会社プロネクサス（本社：東京都港区、代表取締役社長：上野剛史、以下「プロネクサス」）が運営する会員制開示・IR実務支援サイト「PRONEXUS SUPPORT」内の「有価証券報告書サステナビリティ情報の調査」（以下「本調査」）において、GLMの第19期有価証券報告書「事業等のリスク」の記載内容が参考事例として選定されましたので、お知らせいたします。

記

7. サイバーセキュリティリスク	関連マテリアリティ	—
影響度	<経済損失>小、<信用・評判>大 <事業継続>中	将来の見通し →
内容	サイバー攻撃や不正アクセス等により、情報システムが正常に利用できない場合や個人情報等が漏えいした場合、事業継続への影響や信用・評判への影響が生じ、売上高の減少等、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。	
対策・取組み	当社グループでは、「マテリアリティ」としてDXへの取組みを推進しており、情報セキュリティの重要性はこれまで以上に高まっております。 ハード面では、ネットワーク防御機器（UTM）の強化等を推進し、サイバー攻撃に対する防御力の向上に努めております。ソフト面では、情報セキュリティ基本方針やプライバシーポリシー等を整備し、また社員への定期的な教育・啓蒙を図ることで、組織全体のセキュリティレベルの向上に努めております。	

参考資料：有価証券報告書 24ページより抜粋

1. 概要

本調査では、有価証券報告書においてサイバーセキュリティリスクに対し「経済損失」「信用・評判」「事業継続」の側面から影響度を分析し、将来の見通しや関連マテリアリティを一覧表に記載したことについて、情報開示において希少な先事例である上、企業独自の記載の工夫がなされていると評価いただきました。

GLMは、ステークホルダーの皆様に対して正確かつ分かりやすい情報開示に努め、誠実かつ透明性が高い企業行動を継続するとともに、開示内容の充実を図ってまいります。

2. 株式会社プロネクサス/PRONEXUS SUPPORT について

- ・プロネクサスは、上場企業のディスクロージャー活動を支援するリーディングカンパニーです。有価証券報告書をはじめとする開示書類の作成支援、決算説明会資料の作成支援、開示書類の英文翻訳など、幅広いサービスを提供しています。
- ・PRONEXUS SUPPORTは、プロネクサスが運営する会員制のディスクロージャー・IR実務支援サイトです。

URL：<https://ps.pronexus.co.jp/>

以上